

2021年度 国税専門官本試験（専門試験 [多肢選択式]） 講評 その②

No.	科目	出題内容	正解	正答率※	講評
41	政治学・社会学・社会事情	エリート論等	5	A	<p>【政治学・社会学・社会事情】 No41「エリート論等」は一見すると難解な印象を受けるが、「エリートの周流」といえば肢1のパレートのキーワードにもかかわらず、肢2のリップマンと結びつけられているように、ほぼテキスト（Kマスター政治学）の範囲内である。No42「エスピン＝アンデルセンによる福祉国家の分類」は2011年以来、10年ぶりに出題された。テキストをしっかりと読み込んでいなければやや難解な内容であった。No43「マスメディアの影響力」は今回の政治学の問題の中では最も平易な内容に感じられた。3問中でできれば2問は取りたいところである。No44は、語句の暗記だけで解ける問題ではないが、それぞれの調査方法の特徴を考えればできたはずである。No45は、フーコーに関する基本的なことを理解していれば簡単に正解できるレベルの問題である。よって難易度はA[易問]であり、2問とも正解できていることが望ましい。</p> <p>社会事情：例年通り1問（No46）出題された。我が国の労働環境について、近年の動向を中心に幅広く知識を問うものである。いずれの選択肢も、社会科学、時事などの別の科目の知識でも正誤を見分けられる平易な問題であるので、是非正解しておきたい。</p>
42		エスピン＝アンデルセンによる福祉国家の分類	4	B	
43		マスメディアの影響力	5	B	
44		社会調査	5	C	
45		フーコーの権力論	3	A	
46		我が国の労働環境	1	A	
47	英語	内容把握（英文選択肢）	4	A	<p>【英語】 昨年の選択率が14.7%で本年の選択率が14.4%であったので、選択率に大きな差はなかったといえよう。内容把握3題、文章整序1題、空欄補充2題（単語補充）の構成は例年と変わらない。文章整序の形式が昨年と少し異なるが、問題を解く際にはかえって答えを絞りやすくなっていると思う。ただ、空欄補充の正答率がたいへん低く、全体の正答率も昨年よりも下がっている。ただ、6問中4問を正答するという目標は到達できた人が多かったのではないかと。</p> <p>【商業英語】 昨年の選択率は7.7%であったが、今年の実績率は10.2%と選択率はかなり上がった。しかし、昨年と比べると問題の難易度が高く、正答率は軒並み昨年よりも低い。商業英語は昨年の講評にも書いたが、安易に手を出さないほうがよい。一見、答えやすそうに見えて、慣用表現などは、推測で回答できるものではない。上位者の正答率はかなり高いので、かなり英語に自信のある人が選択すべきである。</p>
48		内容把握（英文選択肢）	3	A	
49		内容把握（英文選択肢）	2	A	
50		文章整序	4	B	
51		空欄補充	5	C	
52		空欄補充	5	C	
53	商業英語	慣用表現	5	B	<p>【情報数学】・【情報工学】 省略</p>
54		ことわざ	3	A	
55		会話分空欄	3	A	
56		レター文空欄	1	C	
57		時事 空欄補充	2	C	
58		時事 空欄補充	5	B	
59	情報数学		4	A	
60			3	A	
61			4	B	
62			1	A	
63			2	A	
64			2	C	
65	情報工学		1	A	
66			5	A	
67			3	A	
68			1	C	
69			5	A	
70			5	C	

※ 正答率（A：60%以上、B：40%以上60%未満、C：40%未満）は、LEC公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』のデータ（6/10時点）に基づいて算出しています。本成績診断のご利用方法等の詳細は、LEC公務員Webサイトの専用ページ（<https://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/>）にてご案内しています。

